

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	静岡県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	三島市立北小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	3	4	4	4	3	25	34
児童数	135	115	104	125	135	132	13	759	

研究の概要

1、研究主題

一人一人が輝き、自ら学び、豊かな学びをひらく子供の育成

2、研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

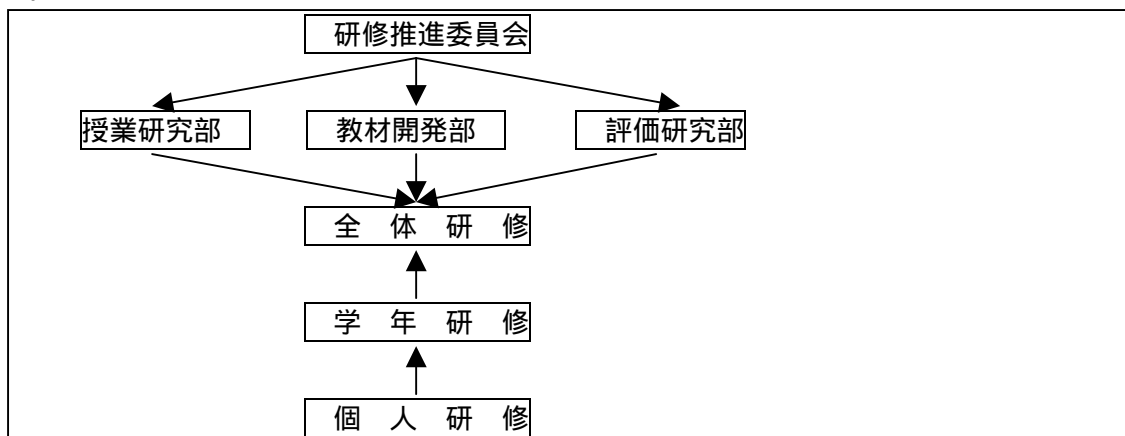
1～6年（全学年） 算数	1～2年では基礎・基本を確実に身に付け、上級学年の学習につなげるため。3～6年では前学年までの習熟の違いがあり、子供の理解の状況に差が出やすいため。
-----------------	--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「一人一人が輝き、自ら学び、豊かな学びをひらく子供の育成」</p> <p>仮説 少人数指導を中心とした個に応じた指導を推進し、魅力的な教材を研究することで、子供の学習意欲が高まり、基礎基本の確かな定着が図られるだろう。また、追求する力を高める体験的な活動や問題解決的な学習を工夫していくことで、自ら学ぶ子供が育成されるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 学力実態調査をもとにした子供の学力の実態把握をする。 単元内容から少人数指導の学習形態計画を作成し、授業実践を通して見直す。 数学的思考力を引き出すための授業研究を進める。 少人数指導の実践と使用した資料の蓄積をする。（ポートフォリオとして残す）</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「一人一人が輝き、自ら学び、豊かな学びをひらく子供の育成」</p> <p>研究の見通し 自分の考えを生かし問題を解決しようとする子、生き生きと自分の考えを発表し友達と学び合う子、基礎基本の力を身に付けようとする子をめざす子供像とし、数学的思考力をはぐくむための授業改善や教材開発、評価方法の工夫に取り組んでいく。</p> <p>研究の内容・方法 授業研究・評価研究体制の充実を図る。 単元内容に応じた少人数指導の工夫改善を進める。 発展、補充教材の開発を進める。 数学的思考力についての評価研究を進める。 研究の発信を進める</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1、研究成果

- ・ 少人数指導を進めることで、子供の学力の実態や領域・単元の特性が少しずつわかってきたため、少人数指導のクラスや授業の形を工夫することができた。
- ・ 授業感想や自己評価カードなど1時間ごとの評価を進めることで、以後の授業に生かすことができた。
- ・ 子供の意識調査から、算数が好きと答える割合が約50%（7月）から約70%（12月）となり算数に対する興味が高まった。

2、今後の課題

- ・ 研究体制を見直し、より効果的に推進できる研究体制を確立する。
- ・ 数学的な思考力をはぐくむための授業改善や教材開発に取り組む。
- ・ 計算力を育てるための時間を作り、繰り返し学習を進める。
- ・ 学年研修、個人研修の充実を図る。

学力把握のための学校としての取組

- ・ 学力実態調査による子供の学力を把握した。
- ・ 定着度調査の結果から、学力の実態について分析した。また、次年度と比較し変容の様子を探っていく。
- ・ 単元前のレディネステストと自己評価を実施した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 学力について他校（市内）の教員も交え、勉強会を実施した。
7月30日 「算数の力について」 岡本 光司先生
8月20日 「確かな学力について」 角替 弘志先生
- ・ 平成16年度に研究発表会を行い、研究成果を広める。

【新規校・継続校】	√ 15年度からの新規校	14年度からの継続校			
【学校規模】	6学級以下	7～12学級			
	13～18学級	19～24学級			
	√ 25学級以上				
【指導体制】	√ 少人数指導	√ T, Tによる指導			
	一部教科担任制	その他			
【研究教科】	国語	社会	√ 算数	理科	生活
	音楽	図画工作	家庭	体育	その他
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	√ 有	無			

その他

- ・ホームページアドレス <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/> (三島市)
三島市 各課の情報 教育部 小学校 三島市立北小学校
- ・メールアドレス kitasyo@city.mishima.shizuoka.jp